

## いもち病に注意！！

—補植用苗で葉いもちの発生を確認しています—

近畿・東海地方は、平年に比べ21日早く梅雨に入り、福井でもすでに各地でBLASTAMによるいもち病発生の好適条件・準好適条件が出現しています。

今年はいもち病予防箱施薬をしていない苗が流通しており、置き苗（補植用苗）でいもち病の発生が確認されています。すべての圃場で直ちに補植用苗の処分をお願いします。

また今後の天候次第で補植用苗が無くても早期にいもち病が発生し、甚大な被害になる可能性があります。

### 1 いもち病の箱施薬等を行っていない場合

- 補植用苗を直ちに処分し、本田に予防剤を散布する

### 2 いもち病の箱施薬等が入っている場合

→6月下旬には箱施薬の効果が落ちてきます。

- 補植用苗は処分し、いもち病の発生に注意する

### 3 いもち病の発生を確認したら

雨の合間を見て直ちに治療剤散布を行う



置き苗から発生した葉いもち（令和2年6月）  
周辺の稲にも葉いもちが感染している

### 4 主な防除薬剤

※農薬の表示（収穫前日数など）を確認し、正しく使いましょう。

予防剤（箱施薬を行っていない圃場はすぐに散布）

剤型	薬剤名	使用量/10a	成分	本剤の使用回数	散布時期・備考
粒剤	オリゼメート粒剤	3~4kg	1成分	2回以内	初発の10~7日前まで ・散布後4~5日間は湛水状態、 ・一週間は落水、かけ流しをしない
	オリゼメート1キロ粒剤	1~1.3kg	プロパナゾール		
	オリゼメート粒剤20	1kg			
	コラトップ1キロ粒剤12	1~1.5kg	1成分 ピロキロン		初発10日前~初発時まで ・散布後3~4日間は湛水状態 ・一週間は落水、かけ流しをしない

治療剤（いもち病を確認したらすぐに散布）

剤型	薬剤名	希釈倍率	使用量/10a	成分	本剤の使用回数	備考
粉剤	ブラシン粉剤DL	—	3~4kg	2成分	2回以内	・散布後4時間程度降雨がなければ 充分効果がある。
液剤	ブラシンフロアブル	1,000倍 8倍	60~150ℓ 0.8ℓ	フェリムジン・ フサライド		
	トライフロアブル	1,000倍 8倍	60~150ℓ 0.8ℓ	1成分 テフプロキエン		
粒剤	オリブライト1キロ粒剤 オリブライト250G	—	1kg 250g	1成分 メトキシ ストロピン	1回	・発生から10日後までに散布する。 ・湛水深3~5cmで散布し、少なくとも4~5日湛水状態を保つ。 ・一週間は落水、かけ流しをしない。

箱施薬を行っている場合でも、いもち病に登録がある薬剤が入っていたか再度確認してください。

☆詳しい農薬情報は農薬登録情報提供システム(<http://pesticide.maff.go.jp>)をご覧ください。